



# 平成30年度 みやぎ小・中学生 いじめ問題を考えるフォーラム



宮城の学校で問題になっているいじめについて、県内各地の中学生が集い、学校の枠を超えて話し合い、生徒が主体となって各学校で実行に移すいじめ未然防止のアイデアを考える「みやぎ小・中学生いじめ問題を考えるフォーラム」を開催しました。

平成24年度に始まり、7回目となった今回は、国立を含む県内各地58の中学校から、113名の児童と各地区のPTAの保護者が参加して、いじめのない行きたくなる学校にするための方策を「私たちの決意」として、まとめて発表しました。

- 日 時 平成30年8月4日(土) 9:45～15:20
- 場 所 県庁2階講堂
- 参加者 県内国・公立中学校生徒113名(仙台市を除く)、引率教員等58名、PTA保護者29名、一般参観14名
- 講 師 ファシリテーター:県内在住の大学生・大学院生26名(指導:ALL東北教育フェスタ実行委員)
- 共 催 宮城県PTA連合会
- 内 容(概要)

## (1)開会行事

### ① 挨拶(高橋教育長)

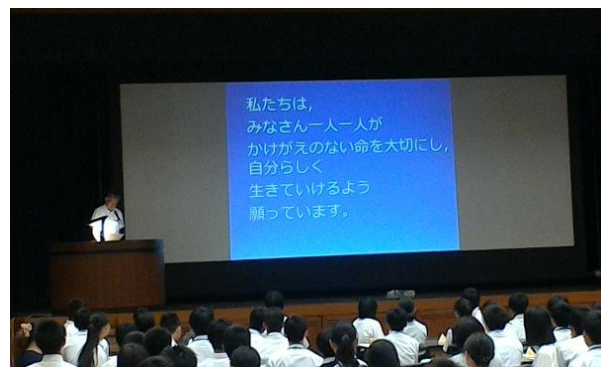
高橋仁県教育長が、「生徒のみなさんが主体となっていじめのない行きたくなる学校をつくるアイデアを出し合い、『私たちの決意』としてまとめてほしいと思っています。そしてそれを、各学校に持ち帰り、皆さんがリーダーとなって実行し、仲間と共に手を取り合って、魅力のある学校づくりに取り組んでほしいと思います。」と挨拶しました。



### ② メッセージ(教育委員会より)

伊藤均教育長職務代行委員が、「私たちは、皆さん一人一人がかげがえのない命を大切にし、自分らしく生きていけるよう願っています。」と、教育委員会から県内の小・中学生に向けたメッセージを読み上げました。

加えて県内の全ての大人の皆さんに向けて「いじめをなくすために、家庭・地域・学校が力を合わせることから実行していきましょう。」とメッセージを読み上げました。



## (2)いじめ問題を考えるワークショップ



### <アイスブレイク>

はじめに、ファシリテーターの司会で、生徒たちの緊張を解くアイスブレイクを行いました。自己紹介をしながら、班員の共通点を探すゲームに取り組み、共通点を踏まえて班の名前を決めました。それぞれ個性的な班名になりました。

次第に、初めて会った仲間とうち解けることができ、話合いの準備が整いました。

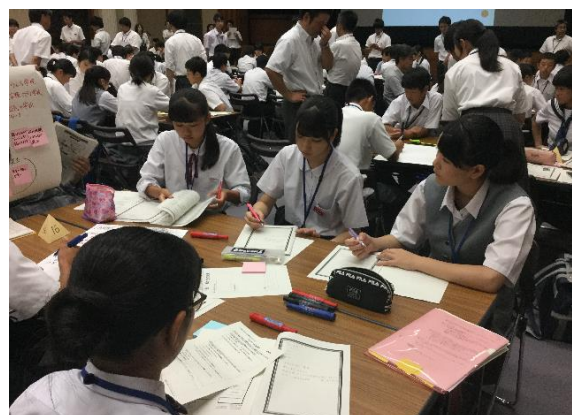


### <ワークショップ1～いじめをしてしまう理由考える>

いじめの定義を確認した後に、「なぜ、人はいじめをしてしまうのだろうか？」をテーマに各班で話し合いました。

生徒たちは、これまでの経験をもとに、付箋紙にその理由を記入し、内容ごとにグループ分けをしながら模造紙に貼り付けて班の考えをまとめていきました。

いじめをしてしまう原因として、「人間関係、嫉妬、ストレス、エスカレート、周りにあわせてしまう、ふざけの延長等々」様々な意見が出されました。



### <ワークショップ2～誰もが行きたくなる学校について考える>

午後のワークショップでは、誰もが行きたくなる学校を考えれば、いじめのない学校を考えることができるという趣旨のもと、生徒たちは行きたくなる学校について考えを出し合いました。

「自分が行きたくなる学校」、「他の人が行きたくなる学校」という視点で話し合い、その後「私たちの行きたくなる学校」としてまとめました。

### <「私たちの行きたくなる学校」の例>

- ・互いを尊重し合い思いやりのある行動ができる学校
- ・行事、授業が楽しい学校
- ・頼れる人がいる学校
- ・みんなが分けへだてなく接し、笑顔の多い学校
- ・個性を生かせる学校
- ・会話が活発な学校
- ・周りのことを気にかけて、いじめられている人がいたら声を掛けられる学校
- ・規則があまり厳しくない学校等



### <ワークショップ3～「私たちの行きたくなる学校」づくりに向けて自分たちが実行できることを考える>

生徒たちは、ワークショップ2の後、誰もが行きたくなる学校にするための具体的な方策を考えました。この方策は、各学校に持ち帰って実際に行動できるようなものという視点で出し合いました。生徒たちは、各学校で取り組んでいることを踏まえながら、新しいアイデアを生み出しました。その後、班ごとに「私たちが取り組むこと」としてまとめました。



### <「私たちが取り組むこと」の例>

- ・いじめ防止の標語グランプリをする。 ・ポスターなどでいじめ0を呼び掛ける。
- ・あるテーマに対して、全員で自由に発言できる時間やコミュニケーションがとれる時間を作る。
- ・困っている人や孤立している人に自分から話し掛ける。 ・笑顔の写真を掲示する。
- ・地域ぐるみで朝のあいさつ運動をする。 ・ルールを口に出して言う。
- ・全校生徒を集めてディスカッション←生徒が主体となっていじめについて話し合う。等

### (3)各班の「私たちの決意」発表

各班1分程度という短い時間でしたが、21の全ての班が、話し合いの成果を「私たちの決意」として堂々と発表しました。班の名前の由来を説明した後、「私たちが行きたくなる学校」の根拠を端的に説明したり、「私たちが取り組むこと」について、情熱的に語ったりしました。

また、学校に戻って、自分たちが考えたアイデアを実行に移したいという決意がみなぎっていました。



### 【主な感想】

- ・グループ内での意見交換を活発にできたと思うし、自分には思いつかなかった考えが出たりして、いじめについて深く掘り下げることができました。発表は緊張したけど、皆でしっかりとやり遂げられて良かったです。
- ・みんなで考えた意見を共有したり、いじめについて深く考えたりすることができました。
- ・大人の方(PTA)の意見を聞きながら、実現できそうな取組まで話し合うことができました。
- ・自分の学校では行っていない他校のいじめ防止活動について知ることができました。

### (4)講評(PTA 連合会杉山会長)

ワークショップの締めくくりとして、宮城県 PTA 連合会杉山会長から講評をいただきました。講評の中で、社会にいじめが生まれる土壌があることに対して、大人もしっかりといじめをなくす取組をして行くと述べてくださいました。また、話し合いが素晴らしかったこと、話し合ったことを実行に移してほしいとの期待が寄せられました。



### (5)閉会行事

#### ① 生徒感想発表

(多賀城市立多賀城中学校 3年 元木 斗我 さん)

(色麻町立色麻中学校 3年 佐藤 若奈 さん)

参加生徒を代表して、多賀城市立多賀城中学校3年の元木斗我さんと色麻町立色麻中学校3年の佐藤若奈さんが感想発表を行いました。話し合ったことを学校で確実に実行に移していきたいという強い決意を語っていました。



## ② 先輩からのビデオメッセージ

宮城県にゆかりのある著名人として、ウェイトリフティング選手の三宅宏実さん(父三宅義行氏、伯父三宅義信氏は宮城県出身)、ミュージシャンのニホンジンプロジェクトエムサイズ佐久間さんからいただいた、いじめ根絶に向けたビデオメッセージを上映しました。三宅さんからは、ご自身の経験を踏まえながら「思いやりの心を大切にしていじめをなくそう」という話をいただきました。

ミュージシャンのエムサイズ佐久間さんからは、「見えないいじめについても気をつけよう。」「いじめを受けている人へ寄り添いましょう。」との話をいただきました。



(ウェイトリフティング選手 三宅 宏実 さん)



(ミュージシャン ニホンジンプロジェクト  
エムサイズ佐久間 さん)

### 【感想】

- ・三宅宏実さんへ、自分自身の体験をふまえてお話してくださってありがとうございました。一人一人がいじめをなくすために考えていくことが大切だと感じました。
- ・エムサイズ佐久間さんのメッセージを聞き、実際にいじめを止めることはできなくても、いじめを受けている人に寄り添うなど、力になれることはいくらでもあると分かりました。今回フォーラムに出た私たちから、いじめを止める活動を行っていきけるよう頑張りたいと思います。
- ・どんな人でもいじめられたことがあり、それを乗り越えてきたんだと思いました。私は傍観者でいるのではなく、止めにはいれるようになりたいです。
- ・私たちもいじめがなくなるように頑張るので、お二人も活動の方頑張ってください。応援しています。ビデオメッセージありがとうございました。
- ・見えないいじめについてもなくしていきたいと思いました。

## ③ 挨拶(奥山義務教育課長)

フォーラムの締めくくりとして、奥山勉義務教育課長が、「『私たちの決意』を実践し、自分の学校だけでなく、地域の学校やみやぎの学校にその取組を広め来年のこのフォーラムで報告してもらいたいと考えております。皆さんの活躍を大いに期待しています。」と挨拶しました。

最後に、ファシリテーター、保護者、市町村教育委員会や各関係者の方々へ感謝を伝えて締めくくりました。

